

2021年度

入学試験問題 (1期)

国語

2021年2月2日(火)

解答を始める前に次の注意事項を十分に読みなさい。

受験上の注意事項

1. 受験票と筆記用具以外は机の上に置いてはいけません。
2. 試験開始の合図があるまで問題冊子を開いてはいけません。
3. 不正行為と認められた場合には退席を命じることがあります。
4. 「開始」の合図で、問題用紙・解答用紙を点検し、解答用紙の受験番号・氏名欄に受験番号・氏名をはっきり記入しなさい。
5. 解答は、すべて解答用紙の解答欄に正しく記入しなさい。(解答用紙の余白には何も書いてはいけません。)
6. 問題に関する質問は不明瞭な文字等の確認以外は応じません。
7. 問題冊子の余白部分や白紙のページは、自由に使用してかまいません。
8. 試験終了時まで退席することはできません。試験終了の合図と同時に、監督者の指示にしたがって解答用紙を通路側に置いてください。
9. 身体の具合が悪くなったときは、手を挙げて監督者に申し出てください。
10. 携帯電話を持っている人は電源を切ってください。これを時計として使用することはできません。
11. 問題冊子は持ち帰ってかまいません。

[I]

以下の文章を読んで、後の設問に答えなさい。

ところで、歴史は、しばしば好き嫌いで論じられます。ぼくもよく聞かれます。

「先生、歴史が好きですか？」

「先生、歴史上の好きな人物は？」

などと言われます。

「うちのお父さん、歴史が好きなんです。先生の本もよく読んでます」とか言われることもあります。

好き嫌いで論じられるものは嗜好品あしらいひんです。酒やタバコと同じです。

はたして歴史学は、好きか嫌いかで選べるものでしょうか。

どうもちがう気がします。

歴史的にものを考えると、前より安全に世のなが歩けます。歴史はむしろ実用品であつて、靴①に近いものではないか。ぼくはそんなふうを考えます。

われわれは未来を見ることは直接にはできません。しかし、たとえば（教壇上を後ずさりながら）後ろ向きに歩いていく。下は見えます。過去の経験で、ぼくは教壇の幅は二メートルか三メートル、短いところは一メートルないとわかっていきますから、この辺まで来たら、そろそろ落ちるとわかる。つまり、過去を見ながら、ある程度、ここからここまでの距離で、もうそろそろ落ちるとわかります。これがじつは歴史の教訓性であり、歴史の有用性といつていいと思います。

だから、過去の関東大震災のときに、（鶴岡八幡宮はちまんぐうの）一ノ鳥居の倒壊状況の写真も残っていれば、津波で鎌倉女学院のあたりがどのぐらいやられたかもわかつているわけです。もちろん前よりすごいのが来るかもしれません。A、ある程度は予測がつきます。

B みなさん、この校内のあらゆるところに「地震がきたらこうしなさい」と貼つてあるでしょう。高いところにすぐ行きなさいと言っているわけです。

犬には無理です。地震の前から、犬や猫に、上へ上がれ！ と言つておいてもたぶん、言葉が通じないから、上がつてくれません。

人間にはそれができます。ですから歴史とは、世間を歩く際に、足を保護してくれる靴といえます。

なにごととも歴史的な考えかたは大切になります。常日ごろから、時間と空間を飛び越えて、似たようなことはないかなと考えながら暮らすと成功パターンも知れ、危険が避けられ、成功しやすいのです。

そもそも、みなさんは志望校を決めるのに、赤本の合格体験記は読むでしょう。あれこそ歴史です。

歴史に学んで受験対策をしているのです。前に受験した人の体験を自分に活かす歴史的試みが、合格体験記を読むことです。人それぞれが、自分の人生にしたがって情報を集めて、どうやっていくかを考えるというのは、けっこう大事なことです。

C 歴史の視点の問題について考えましょう。だれの視点からモノを見るか、ということ。その点、歴史とはメガネでもありません。

歴史には「客観性」の問題があつて人によって同じものを見ても見かたがちがいが生じます。非常にむずかしい面があります。

D ここにペットボトルがあります。みなさんから見ると完全にペットボトルですが、こち側(底のほう)からしか見えてなかったら、ただの〇マルにしか見えません。物事は全部そうです。情報が少ない段階では、あるいは見ようとならない人にとっては、はじめはなんだかわからない。ペットボトルだって、四方八方からながめれば、これは「おいしいお茶」のボトルだとわかります。メーカーは伊藤園だなど(笑)。

E いろいろな視点からみれば、理解がだんだん深まっていきます。またまた犬の話になりますが、たとえば、ぼくが友だちの家へ行って、番犬をしている犬にワオオオ！(犬の鳴き声を真似る)——と吠えられたとします。このとき、

——犬は人に吠えるものである。

という、ひとつの教訓、つまりは仮説(テーゼ)ができます。

ところが、友だちが玄関から出てきて、

「メツ、メツ！ この人、友だち」

と叱つたらキューンとおとなしくなつたら、どうでしょう。

あら？ 犬は人に必ずしも吠えるわけではない。そういう先ほどとは矛盾した情報を得た場合、次の仮説が成り立ちます。

——犬は、自分が主人だと思っている存在に危害を加えそうな者に吠える。
要するに情報が増えてくるにつれて、前とちがう、矛盾する状況が生じます。この矛盾が大事です。

ぼくには吠えた

← 主人が出てきて「この人は大丈夫なんだよ」と叱る

← 吠えなくなった

という一連の事態のなかに、前と矛盾した状況があるから次の段階に進めるわけです。これがいわゆる「弁証法」なんです。自分の思いこみではなくて、自分が前に思っていたのと全然ちがう情報を大事にするというのが、じつは世のなかを生きていくうえで肝心です。

歴史学の場合もそうです。さっき言った「客観性」の問題です。

たとえば真珠湾攻撃だって、攻撃した日本の側と攻撃されたアメリカ市民の側では全然ちがうことを考えます。

史実、歴史の事実、このかたち^{ベントボトル}があつたとして、史実^{ベントボトル}はひとつなだけで、見る視点や見る人による解釈は人それぞれです。これは非常にむずかしい問題をわれわれに投げかけています。プロの歴史家にとってもむずかしいものです。

しばしば起きるのが日本と韓国のあいだの歴史認識の問題、摩擦、^b軋轢^{れんれき}ですね。

これは植民地にしたほう（日本）と、されたほう（韓国）ですから、もう、なにを言っても「—— I ——」線になりやすく、どっちの視点から見るとかでまるでちがってきます。

日本国内には、こう言う人もいます。

「植民地支配がよくなかったと言うが、まだ後れていた朝鮮半島に農業用の水路やダムをつくったり、お米が穫れるようにして近代化のためにいろいろやってあげた側面もあるではないか」

それを聞いた韓国の側が反論します。

「でも、日本国内でお米が足りないときは、そうやって増産したお米を日本に輸出したじゃないか。朝鮮人には雑穀を食べさせた」

さあ、どちらが正しい……ではないでしょう。

問題なのは、史実はひとつですが、どこを見るかで、ずいぶん違った話になります。

ここに重要な点があります。

自分に都合のいい史実だけを見ようとすると、見えるものが、とても少なくなってしまう点です。双方の利害、複数の視点で物事は見なくてはなりません。勉強でも学問でもここが急所です。そしてここから先がほんとうに大事です。自分にとって有利な情報も、有利でない情報も、両方しっかりと見なくてはいけません。

ペットボトルでいうと、上からも見るし、横からも見るし、下からも見る行動が非常に重要です。これは、日韓関係のような国民国家間の問題にかぎりません。日本国内でも歴史観の地域対立はあります。たとえば、薩摩さつまや長州の人たちが語る幕末維新の歴史と、攻められて「賊軍」呼ばわりされた会津や東北の人たちから見た明治維新の歴史では、全然ちがうものになります。

⑥ 歴史とは、けつきよく、他者理解です。なるべく自分から離れて異時空を生きた人びとの了見をも理解しようとしたほうが、情報が多くなり、客観性が増し、歴史認識が深まります。

(磯田道史『歴史とは靴である 17歳の特別教室』より)

〔設問〕

問1 空欄 A E に補うのに最も適切な接続詞を選びなさい。なお、それぞれに異なる接続詞が入る。

ア すなわち イ たとえば ウ 次に エ しかし オ だから

問2 二重傍線部 a、b、c の語句の意味として、それぞれに最も近いものを選びなさい。

a 嗜好品

ア 人生における必需品 イ 高価でぜいたくな食品 ウ 金銭的価値のない物品 エ 趣味で楽しむ飲食物

b 軋轢

ア 仲が悪くなること イ 物同士がこすれ合うこと ウ 徐々にずれていくこと エ 勝敗をかけて戦うこと

c 急所

ア 緊迫している部分 イ すぐ覚えるべき部分 ウ 最も大事な部分 エ 全体の中の限られた部分

問3 「互いの意見がどこまでいっても一致しない状態」という意味になるように、空欄「 I 」に適切な漢字二字を補いなさい。

問4 傍線部①「歴史はむしろ実用品であつて、靴に近いものではないか」とはどういうことを言っているのか。最も適切なものを選びなさい。

ア 歴史は好きだから学ぶものではなく、歴史上の事象を覚えることで世の中を安全に生き抜く規則を身につけられるものだという事。

イ 歴史は知識の多寡を競うものではなく、もの見方を変えることで直接は見られない未来を的確に予測するためのものだという事。

ウ 歴史は好きか嫌いかを論じるものではなく、過去を活かすことで危険を回避しながら世の中を渡っていくためのものだという事。

エ 歴史は本を読んで知ればよいというものではなく、目の前にある実際の出来事から教訓や有用性を引き出すべきものだという事。

問5 傍線部②「それ」とは具体的に何を指すか。その説明として最も適切なものを選びなさい。

ア 実際に地震が発生したときに、過去の津波がもたらした被害の大きさを思い起こすこと。

イ 地震が起こる前から、動物たちに地震が起こったら上へ上がれと教え込んでおくこと。

ウ 過去の教訓を生かして、前の地震よりも更に大きな津波が押し寄せるのを恐れること。

エ 過去の地震に基づいた予測に従って、地震が起きたときには適切な避難行動をとること。

問6 傍線部③「あれこそ歴史です」とあるが、「合格体験記」を読むことが「歴史」であると言えるのはなぜか。三十字以内で答えなさい。

問7 傍線部④「客観性」の問題」とはどういうことか。最も適切なものを選びなさい。

- ア 歴史上の問題には主観が混ざりこむため、客観性を担保することが困難であるという問題。
- イ 歴史的な出来事には記録が存在しないため、客観性に基づく事実認定ができないという問題。
- ウ 歴史上の問題には必ず争いがあるため、第三者の客観的判断が常に必要になるという問題。
- エ 歴史を活かす姿勢が希薄であるため、客観的な学問である歴史学が普及しないという問題。

問8 傍線部⑤「この矛盾が大事です」とあるが、なぜ「大事」だと言えるのか。最も適切なものを選びなさい。

- ア 多くの情報が入ってくることで、自分の知識を活かして行動できるから。
- イ 以前とは異なる状況が生じることで、新たな知見を得ることができるから。
- ウ 経験したことのない出来事が起こることで、多くの仮説を立てられるから。
- エ 予測がくつがえる可能性があることで、多様な解釈の余地が広がるから。

問9 傍線部⑥「歴史とは、けっきょく、他者理解です」とあるが、筆者はここをどういうことを言おうとしているのか。「く」ではなく」という形で、「客観」・「歴史認識」という語を用いて七十字以内で説明しなさい。

〔II〕 以下の文章を読んで、後の設問に答えなさい。

日本人が鎖国体制下の小世界に閉じこもってくらしているあいだに、産業革命が進行した欧米では、資本主義が急速に発達し、大きな経済力と軍事力をもつ国家が成立していた。これらの列強は、商品の市場と資源をもとめてアジアに進出してきた。

嘉永六（一八五三）年、東京湾にトツジヨ、アメリカの艦隊が現れた。司令官ペリーは、開国を要求する大統領からの親書を幕府にわたし、それに応じないなら軍事行動も辞さない姿勢をしめした。これが契機となり、一八五〇年代に幕府は、アメリカ、イギリス、フランス、オランダ、ロシアと通商条約を締結した。すなわち、国内のいくつかの港への、これらの国の船の来航、貿易を許可し、外国人の居住区画をつくることを承認しなければならなくなった。これらの条約は、居住する外国人に対して日本の裁判権は行使できず、関税の税率も日本側は決定できない、という不平等条約であった。

通商条約による貿易では、日本からは生糸、茶を主要な輸出商品とし、輸入品は毛織物、錦織物、武器であったが、貿易にともなう国内の物価が上昇し、下級武士や農民の生活は苦しくなった。また、開港した場所はすべて幕府の直轄領に限られたので、貿易利益が幕府に独占されることにたいする諸藩の不満や、貿易で利益をあげた商人への下級武士の反感がたかまった。これらの社会的不満が外国人排斥運動に結集し、やがて幕府を倒すという尊皇攘夷運動に発展した。この運動を推進した下級武士の指導者たちは、将軍を打倒したあとの政権のない手として、名目的な王権の保持者にすぎなかった天皇を選択し、こうして明治維新が実現した。

退位した将軍の居城に、京都から天皇が移り住み、江戸は東京と改名され首都となった。大名の藩は廃止され、天皇を頂点とする中央集権政府が^①つくられ、欧米をモデルとした近代国家化が強力におしすすめられた。その目標は、近代産業を移植して日本の産業革命を実現することと、徴兵制度にもとづく近代的な軍隊をつくりあげること、すなわち富国強兵を実現することであった。そのためには、近代的な学校制度の導入と、強い兵士や頑丈な身体をもつ労働者となり得る国民をつくること^②が A であると考えられた。

欧米の事情に通じた当時の知識人たちは、欧米人とくらべると日本人の体格が貧弱である理由のひとつは、肉食をしないことと、乳製品を食べないことにあると考えた。明治五（一八七二）年に、天皇が牛肉を食べたことが新聞報道され、一般の国民も肉を食べることがⁱⁱシヨウレイされた。当時は、肉を食べたり、ミルクを飲むことが文明人の資格であるとされたのである。

② 軍隊の食事には、肉を使用した献立が採用されるようになった。都市に西洋料理店が開業されはじめたが、それはエキゾチックな

料理であるとともに、「肉料理を食べさせるところ」として人気を得たのである。スキヤキのように伝統的な日本の料理法を応用した肉料理も考案されたが、あたらしい素材である肉には西洋料理の技術が採用されることがおおく、西洋料理店は肉を食べさせ、あたらしい飲みものであるビールを飲ませる場所として繁盛するようになったのである。

隣国である朝鮮半島や中国の伝統的料理にも肉は使用され、パンではなく飯と一緒に食べることができ、ナイフ、フォーク、スプーンといった使いなれない道具ではなく箸で食べられるので、日本人にとっては親しみやすい肉料理のはずである。しかし、朝鮮料理店、中国料理店は、ながいあいだ日本で市民権を得ることができなかった。それは近代化の過程における、日本の海外諸国に対する態度に関係する。

日本の地政学的な位置からして、歴史的に、日本人にとっての文明のモデルは常に中国であった。しかし、阿片戦争（一八四〇～四二年）によって中国が西欧に侵略された過程に関する情報を得ていた日本の知識人たちは、日本の開国以前に、欧米の文明が世界を動かしていることを知っていた。そして、近代化にあたって、中国を捨て去り、モデルとして欧米の文明を採用したのである。そこで、欧米の食事は文明的で学ぶ点がおおいが、中国、朝鮮半島の料理は停滞したアジアの食事としてかえりみられなかったのである。

さらに、日清戦争（一八九四～九五年）に勝利をおさめたことが、中国を蔑視する風潮をつよめた。当時、神戸、横浜、長崎に中国人街が形成されていたが、その中国料理店に出入りするのは日本在住の中国人に限られており、中国料理は「前近代的で不衛生な食べ物」とみなされていた。日本人が、中国料理が安くておいしい料理であることを認識し、都市に中国料理店が多数出現するのは、第一次世界大戦が終了した頃になってからである。

朝鮮半島の料理にたいする偏見はさらにつよかった。ニンニクとトウガラシを多用する朝鮮料理が、肉と香辛料をあまり使用しなかった日本人の伝統的な味覚にあわない、ということもあるが、朝鮮半島の人びとにたいする民族差別ともふかい関わりをもつ。

明治四三（一九一〇）年の日韓併合により、日本は朝鮮半島を植民地とした。これを契機に、朝鮮半島の人びとを「日本人が教化すべき民族である」とみなす観念がつよくなり、朝鮮の女学校では家事の授業のさいに、朝鮮人の女子生徒に日本料理を教えたほどであった。日本の都市に、日本人の顧客を対象とする朝鮮料理店が開業するのは、敗戦後、朝鮮が植民地支配から解放された、昭和二〇（一九四五）年以降のことである。

日本は、台湾、朝鮮半島を植民地とし、明治三七～三八（一九〇四～〇五）年の日露戦争後は南満州における利権と市場を独占する権利を得て、さらに第一次世界大戦後にはミクロネシア諸島を国際連盟から委任統治領として委託され、領土を拡大しながら帝国

主義の列強の仲間入りをしていった。その経済的基盤をささえたのが、資本主義の成長と、それにもなう産業革命の進行であった。大正八（一九一九）年、日本の工業生産額が農業生産額を上回り、日本は農業国から工業国になった。

④このような経済構造の変化とともに、人口は急激に増加した。近代的な人口調査がおこなわれるようになった明治五（一八七二）年の人口は約三五〇〇万人であったが、大正八年には約五五〇〇万人に増加している。国内における食料増産と植民地からの収奪のほかに、海外から食料を輸入できるだけの工業生産の進展が人口増をもたらしたのである。

大正時代（一九一二―二六年）、日本は第一次世界大戦に参戦したが、たいしたキセイを払わずに、太平洋と中国にあったドイツの領土の権益を得ることとなる。戦争によって、^{iv}ビヘイしたヨーロッパに変わってアジアの市場を獲得して、経済が上昇し、平和で繁栄した時代をむかえる。この時期、日露戦争後に政治的発言権を強化しはじめた軍部を批判し、自由主義、民主主義をおもんじる風潮がたかまった。いわゆる「大正デモクラシー」である。

この頃、都市において、ホワイトカラーの給与所得者など中産階級の人口が増大し、^⑤あたらしい生活様式のない手となった。この階層の人びとは、家庭では和服でくつろぐが、戸外と職場では洋服を着てくらし、伝統的な日本建築の住居に、洋風の応接間をそなえた。座つたり、かがみこんで料理する従来の台所にかわって、立つて作業でき、都市ガスと水道を使用する洋風の台所を選択した。中国料理に親しんだり、それまでは外食するものであった西洋料理を家庭でつくりはじめたのも、喫茶店でコーヒーを日常的に飲むようになったのも、この階層の人びとであった。このようなあたらしい生活を通じて砂糖、牛乳の消費量が増大していった。

このような、現代人の食生活につながる大正デモクラシー下におけるあたらしい生活様式は、未成熟の段階で、きびしい社会情勢の変化に直面し、挫折してしまう。一九二九年のウォール街にはじまる世界大恐慌が、翌年には日本に波及し、近代国家体制になつてからの日本が経験した最大の経済的危機となった。不況の影響をもつとも深刻にうけたのは、あたらしい食の様式をになう中産階級であったし、その後によつてきた戦争の時代になると、この新興中産階級のみならず、日本人全体の食生活は大幅な後退をよぎなくされた。

昭和六（一九三二）年に軍部が満州事変をひきおこし、満州での侵略戦争をはじめ、傀儡政権である満州国がつくられた。それについて国際的な非難がおこると、日本は国際連盟から脱退し、国際的に孤立化し、強力な発言権をもつ軍部のもとでファシズムへの道をたどった。昭和一二（一九三七）年に日中戦争、昭和一六（一九四一）年に太平洋戦争をひきおこし、昭和二〇（一九四五）年に連合軍に降伏するまでの一五年間、戦争の時代がつづいた。ながびく戦争のため、食料の確保が困難になり、昭和一六年から政府による食料の配給制度がはじまったが、太平洋戦争の末期には配給すべき食料もほとんどなくなり、国民のおおくが空腹になやま

される状態であった。

敗戦後は、政府にとつて最重要政策のひとつが食料の増産であり、とくに米の収量の増大にむけて努力がなされた。米の生産量が一五年戦争以前まで回復したのは、一九五〇年代中頃のことである。

一九六〇年代になると、日本経済の急速な成長が顕著になった。経済成長は食べものの量的増大ばかりでなく、質的な変化をもたらした。米と野菜に依存する伝統的食生活から、以前にくらべて、よりおおく魚を食べ、肉が日常の食卓にならぶようになり、動物性蛋白質の摂取量が増大した。油脂の摂取量もおおくなり、伝統的日本料理では使用しなかった香辛料も使われるようになり、朝食には米をタカずに、パンを食べる家庭もおおくなった。西欧、中国、朝鮮半島に起源する外国の料理技術が家庭の台所にとりこまれ、日常の食卓にならぶようになったのである。

そのいっぽう、昭和三七（一九六二）年以降、米の消費量は減少をつづけている。米を腹一杯食べ、副食物は食欲増進剤として少量あつたらよいという、主食中心の伝統的な食事パターンから、味覚を楽しませる副食物を数おおく食べる食事パターンに変化したのである。

このような変化の背景には、食に関する^⑦ことからの「産業化」の進行がある。日本経済の発展とともに、「社会の側の台所」である食品産業が成長し、パン、ハム、ソーセージ、乳製品など外国起源の食品を家庭の台所におくりこむようになった。また、スーパーマーケットのような流通業が、調理済みの食品や、ほんのちよつと手を加えれば食卓にのせられる半調理済みの食品を提供することによって、あたらしい食べものが家庭にうけいれられるようになったのである。

その象徴的な食べものが、湯をそそぎ三分間したら食べられるという、昭和三三（一九五八）年に発売された「チキンラーメン」である。日本で発明された即席麺は、いまや世界的な商品となっている。いっぽう経済成長とともに、「社会の側の食卓」である外食産業も急速な伸びをしめしている。一九九〇年代前半、日本の産業界では、電気機器産業、自動車産業、石油産業について巨大な金額をあつかう産業分野に食品産業が位置するようになり、ついで鉄鋼産業、外食産業の順になっている。

このような食の産業化によって、現在の日本人が享受する豊かな食事が実現したのであるが、いっぽう、家庭の台所や食卓を、社会の側の台所である食品産業と、社会の側の食卓である外食産業がとどなく浸食していくのではないかという不安も顕在化している。

（石毛直道『日本の食文化史 — 旧石器時代から現代まで』より）

〔設問〕

問1 空欄 A には「なくてはならないこと」という意味の語句が入る。適切な漢字三字を補いなさい。

問2 傍線部①「欧米をモデルとした近代国家化」とあるが、具体的に何を目指したものであったのか。本文中から五字以内で探して、そのまま書きなさい。

問3 傍線部②「軍隊の食事には、肉を使用した献立が採用されるようになった」目的はどのようなものだと考えられるか。二十五字以内で書きなさい。

問4 傍線部③「ながいあいだ日本で市民権を得ることができなかった」のはなぜか。最も適切なものを選びなさい。

ア 中国の料理は近代以前のモデルとして受け入れられたが、朝鮮の料理は民族差別の問題もあって普及が遅れたから。

イ 中国の料理は後発国の料理として敬遠され、朝鮮の料理も安価で不衛生な食べ物だと見なされることが多かったから。

ウ 朝鮮や中国の料理は、日本の食文化との共通点多かったが、香辛料を多く使うことにはなじみがなかったから。

エ 朝鮮や中国の料理は、当時日本が模範とした欧米の料理とは異なるうえ、朝鮮や中国を蔑視する風潮もあったから。

問5 傍線部④「このような経済構造の変化とともに、人口は急激に増加した」とあるが、産業構造の変化がどのように人口増につながったのかわかる最も適切な一文を本文中から探し、最初の五字を書きなさい。

問6 傍線部⑤「あたらしい生活様式」とはどのようなものか。最も適切なものを選びなさい。

ア 砂糖や牛乳を消費し、日常的に外食をするなど、台頭し始めたホワイトカラーに見られた生活。

イ 中国料理に親しみ、洋風の台所で西洋料理を作るなど、都市部の中産階級に見られた生活。

ウ 戸外や職場では洋服を着用し、和装を省みなくなるなど、都会に住む女性に見られた生活。

エ 洋風建築の住宅に住み、喫茶店で西洋料理を楽しむなど、高額の給与所得者に見られた生活。

問7 傍線部⑥「質的な変化」についての説明として適切ではないものを選びなさい。

ア 西洋の料理技術の習得が目指され、東洋の料理は食べられなくなった。

イ 日本料理では伝統的に使用されなかった香辛料が使われるようになった。

ウ 動物性蛋白質の摂取量が増加し、油脂の摂取量も多くなった。

エ 米や野菜ばかりではなく、肉や魚を多く食べるようになった。

問8 傍線部⑦「食に関することがらの『産業化』の進行」とあるが、これによって日本の食卓にどのような変化が生じたか。五十

字以内で説明しなさい。

問9 波線部あ〜おの漢字の読み仮名をひらがなで書きなさい。

あ 直轄 い 排斥 う 繁盛 え 蔑視 お 享受

問10 波線部i〜vのカタカナを漢字に直しなさい。

i トツジョ ii ショウレイ iii ギセイ iv ヒヘイ v タ

〔I〕

問1 問2 問3 問4 問5 問6 問7 問8 問9

A									
B	C	D	E						
a	b	c							
a	b	c	d	e	f	g	h	i	j

受験番号		志望 学部・学科	
第1	第2	第3	

※太枠内を記入

国語(1期)

解答用紙

氏名

合計点

〔II〕

問1 問2 問3 問4 問5 問6 問7 問8 問9 問10

あ	い								
え	う	お	か	き	く	け	こ	か	き
i	ii	iii	iv	v	(カ)				

国語(1期) 模範解答

[I]

- 問1 Aエ B才 Cウ Dイ Eア (2点×5=10点)
問2 aエ bア cウ (2点×3=6点)
問3 平行 (2点)
問4 ウ (4点)
問5 エ (4点)
問6 前に受験した人の体験を自分に活かそうとしているから。(5点)
問7 ア (4点)
問8 イ (4点)
問9 自分たちに有利な史実だけを見るのではなく、複数の視点で物事を見て多くの情報を得、できるだけ客観性の高い歴史認識を深めるべきだということ。(6点)

[II]

- 問1 不可欠 (2点)
問2 富国強兵 (5点)
問3 頑丈な体格を持つ兵士を増やし、強い軍隊を作るため。(5点)
問4 エ (4点)
問5 国内におけ (6点)
問6 イ (4点)
問7 ア (3点)
問8 外国起源の食品や、調理済みで提供されるあたらしい食べものが家庭にうけいれられるようになった。(6点)
問9 あちよつかつ い はいせき う はんじょう え べっし お きようじゅ
(2点×5=10点)
問10 i 突如 ii 奨励 iii 犠牲 iv 疲弊 v 炊 (2点×5=10点)